

海洋観光の振興に関する検討会（第4回）

議事要旨

【開催概要】

日時：2014年6月16日（月）15:00～16:15

場所：中央合同庁舎3号館4階総合政策局会議室

【議事概要】

1. 開会

2. 座長挨拶

- 本日は、海洋観光の振興に向けた最終とりまとめ(案)についてご議論いただきたい。

3. 海洋観光の振興に向けた最終とりまとめ（案）について

○ （資料1、資料2に基づき説明）

- 第3回の検討会の後に、韓国の沿岸でフェリーの転覆沈没事故が起き、報道等でセンセーショナルに取り上げられた。今回の事故を受けて船に乗るのを取りやめた方もいる。海や船の怖さの払拭のため、もっと安全性のPRについて施策を盛り込んでもらいたい。
 - 例えば、子どもが見てもわかるようなPR冊子の配付など。
 - ウェディング需要も海洋観光に関連している。海外挙式の人気エリアは、ハワイ、グアム等、ビーチ関係が非常に高くなっている。ウェディングと海洋観光のイメージをつなげてPRできるとよい。
 - 韓国のフェリー事故の件については、事件が大きかったので最終とりまとめの中で少し触れた方がよい。
 - 定期クルーズではなく、「定点・定期クルーズ」という表現の方がよい。同じところを回るという意味ではなくて、それを繰り返しやっているということ。
- ご指摘の点については、座長とご相談の上、修正させていただく。
- 「定点・定期クルーズ」という意見について、日本籍船に適用されている海上運送法において、定期船事業者は許認可制という縛りがある。定期クルーズとなると、定期運送事業者の許認可を得ないと行けないこととなり、振興しようとする施策と逆行するのではないか。「定点・定期クルーズ」という書きぶりで大丈夫か。
 - 定点・定期クルーズはカリブ海や地中海で流行っているクルーズをイメージしている。

単に定点でなく、定期的にクルーズがあればマーケティング的に考えるとマーケットが圧倒的に広がるという趣旨からの意見である。

- 法律の問題については、委員のご指摘の趣旨を踏まえ、事務局で文言を調整する。
- 委員意見のとおり、定期運送と不定期とだと事業の規制体系が全く違う。この場合は航空でいう、いわゆる「プログラムチャーター」に近い概念と思われるが、いずれにせよ、検討、調整する。
- 最終とりまとめからは「海洋観光」という運動を今後やっていくというところを感じられない。個別の施策推進だけでなく、全体として「海洋観光」という言葉をもっと全面に出して、活動を進めてほしい。
- 最終とりまとめの「おわりに」のところで、「施策について継続的な把握共有をして更なる展開を図る」という記述をしている。具体的に方法が定まっているわけではないが、施策の取組についてモニターしていく。また「海洋観光」を推進する活動については、前年度のシンポジウムのような形も含め、考えたい。
- 最終とりまとめに「海洋観光振興に向けた数値指標の設定」という記述があるが、こういった目標数値が課題になってくる。こういった目標数値を持って、つまり誰がどういった商品を作って販売するのかなどという部分を具現化しないと、スローガンで終わってしまう。
- 今回の最終とりまとめにおいては、いったん実態を整理するアプローチで整理したが、本当に政策ツールとしてそれが適切なのかという部分はさらに検証が必要なかもしれない。体系的なアプローチをすれば違ってくる可能性もある。
- 指標を設定して到達できたかということと、到達できなかったときの責任についてはセットとなる。これからやっていかないとわからないところもあり、また盲点もあるだろうが、今後については問題意識を持って取り組みたい。
- 観光については、国も自治体も民間事業者も、いわゆる地域で、みんなで一緒にやっていないと目標が達成できないというのが傾向としてある。数値目標をどういうふうに立てるかということをしっかり検討しないといけない。時間がかかっても骨太のものを作り、併せて合意形成も行っていただきたい。
- 継続的に振興を図っていくということが大きな目標の一つ。
- 国交省でも各部署で様々な取組をしているので、政策部分のすりあわせをしっかりすべき。また、官がやるべきこと、民がやるべきこと、あるいは共同でやるべきことを分けた上で、具体的なものを出していかないといけない。
- 海は全てにおいて最重要な経済活動の1つの仕組みであるから、観光だけに全てを収めることなく、経済界の協力についても打ち出していくべき。
- 政府と民間の役割について、最終とりまとめの中でざっくりと整理しているが、本当

に有効な整理かどうかというのは社会の価値観の変動にあわせて変動していくと考えている。海洋観光の議論の内容について、突き詰めていくと短期的な議論で収斂させられない。そういう意味で継続的に施策の取組を進めていこうとしている。

- 組織の縦割りの議論の中で解決できるような話ではないので、検討会の皆様には引き続きご協力をお願いしたい。

- 内航課の所管する貨物船事業の方々から、海洋観光に対する期待を寄せられているので紹介したい。
- 内航船員の半数は50歳以上と高齢化が進んでいる。若い人に船員の仕事を理解してもらうためには、根本のところ、小さな頃から海に親しむことが大切であると痛切に感じており、今回の最終とりまとめを受けた様々な取組が進んでいくことを期待している。

- 当面の目標は2015年の海洋観光年であると思うので、来年に向けてしっかり取り組んで頂きたい。
- 最終とりまとめの「おわりに」のところで、最後の部分が「望まれる」という表現であるが、少し弱いので、「必要である」などと文章を少し修正できないか。

- 提示される方が要望していくという意味でこのように書いている。もう少しメッセージ性の高い言葉ということであれば、座長と相談させていただきたい。

- 主語が検討会なので、この場の同意を得られれば、もう少し強い表現にすることも可能。例えば、「必要である」、「着実に推進されたい」など。そのような、もう少し強いトーンに修正することによるしいか。

- 「されたい」の表現は強すぎる。

- では「されたい」ほど強くはないが、「望まれる」よりは強い表現とさせていただくが、具体的には座長一任でお願いしたい。その他の文言等の修正についても座長預かりとし、事務局と相談させていただきたい。

- 海洋観光については、本日の議論にもあったように「継続」という前提で、今後も引き続き、委員の皆様にはいろいろとご協力いただければと思う。

<以上>